(1)

会

公益社団法人中部日本書道会編集事務局編集部 〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45-19桑山ビル8階C号室電話(583)1900番FAX(583)1900番

http://www.cn-sho.or.jp info@cn-sho.or.jp 印 刷 株式会社 荒川印刷

目

第二十六回壽書展

3

第四十九回東海テレビ文化賞ご受賞名誉会長代行 樽本樹邨先生

第六十九回愛知県教育文化功労者表彰名誉副会長 安藤滴水先生

次

2

鬼頭翔雲名誉副会長「年頭所感」

関根玉振理事長「新年のご挨拶 樽本樹邨名誉会長代行揮毫

第六十二回現代書道二十人展名誉会長代行 樽本樹邨先生

ご出品

16 15 12 11

第六十八回中日書道展出品規程 改組 新 第四回日展入賞・入選者 会員交流ボウリング大会

(抜粋)

日程表

二○一七チャリティ愛の募金

1

海部俊樹名誉会長「新年のご挨拶」

10 9 4

第二十九回書道教育研修会開催国外史跡探訪研修旅行

第二十一回

書の魅力 公開講座

樽本樹邨名誉会長代行揮毫



昨年は、国内外を問わず、



会員の皆様、

明けまして

俊 樹

日



中日新聞 平成30年1月1日号より転載

## の

中

政治の世界とは一線を画し、 月二日で満八十七歳の春を迎 あることを願っております。 存じます。この一年が会員の めでとうございます。健やか 日常を送っております。 穏やかではあるものの元気で えることとなりました。今は 皆様にとって平和で良い年で な新しい年をお迎えのことと さて、わたくしは、本年一

と思います。特に日本の安全 英知をもって解決に導いて欲 まさに激動の一年であったか しいものです。 面にありますが、 保障に関わる問題は難しい局 関係各国が

いことでありました。

国内では、懸案でありまし

道がととのって参ったようで とにつきましてもようやく筋

ります。盛大に開催される事 事表彰は本会にとっても喜 の教育文化功労者・愛知県知 化賞、並びに、安藤滴水先生 樽本樹邨先生の東海テレビ文 を願っております。 おいて開催の予定となってお えません。本年は、愛知県に 好に貢献したことは喜びに堪 好書道展』が中国南京市にお 力により『愛知県・江蘇省友また、十一月には本会の協 段の連勝記録更新は記憶に新 ましい活躍も話題となりまし いて盛大に開催され、 たことは喜ばしいことです。 して脚光を浴び、裾野が広がっ て将棋の世界が、 しいことです。彼の活躍によっ た。 しょうか。他方、若者のめざ てはならないことではない 持ちを十分に考えていかなく す。いずれにせよ陛下のお気 地元中学生棋士・藤井 従来にもま 加えて、 日中友 で

ることを願ってやみません。 である書道の発展に寄与され 丸となって、日本の伝統文化 体制の企画委員の皆さんが一 関根玉振理事長はじめ、

さて、

本会の今年一

年

より使用が出

た天皇陛下の生前ご退位のこ



事 関 長 根 玉

振

新年明けましておめでと

す。本会名誉会長代行の樽 嬉しいニュースがございま れたことと思います。 いを胸に一年の志を立てら お迎えになられ、新たな思 十年・戊戌の歳を健やかに うございます。 この新しい年の寿ぎに、 会員の皆様には、 、平成三

第六十九回愛知県表彰・教副会長の安藤滴水先生が、 東海テレビ文化賞を、名誉 変わらぬご指導をお願い申 後ともご健勝で、本会にも れました。両先生には、今 ぞれご受賞・表彰を受けら 育文化功労者として、それ し上げます。

ます。

今年度

於いて着々と計画が立てら 事業予定に対し、事務局に 実行すべく準備がなさ

には、ご無理なお願いを

た。会員・協賛会員の皆以

を記念する、愛知県・江蘇 化四十五周年並びに、日中 内のとおり、 ております。 する形で実施したいと考え 展」を、中日書道展と併催 省文化交流事業「友好書道 平和友好条約締結四十周年 事のお力添えにより実現い えますが、 事業であります中日書道展 たしました、日中国交正常 本年で第六十八回を迎 かねてよりご案 最も基本となる 大村愛知県知

をより深く築いてい 心と心が通い合う友好関係 ての交流により、 術の華である『書』を通じ 三千年を超える歴史を有 日中両国に共通する芸 人と人、

本樹邨先生が、第四十九

口

きたいと願っており 館が耐震補強工事に展では、愛知県美術 及び日程となりまし 苦心の末の会場確保 の中日書道 田来ず、 団体署名実施協力中 つなごう日本の書通文化 スネスコの無形文化道確に

り、 では、一 て、新年のご挨拶方々、 どうか皆様には、今年 頼もしい限りです。

だきました。 年の抱負を述べさせていた 部・支部事業へのご参加、 年の自己研鑽とともに、本

けるようご協力いただきた たすかもしれませんが、 く存じます。 うかご理解の上、 その他では、例年同様に、 成功に導

お力添えをお願いしまし 紀の歴史を有することとな いて五十周年を迎え、半世 れております。西三河支部 いても様々な事業が計画さ 業のみならず、各支部に於 展・書きぞめ展等の本部事 教育研修・公開講座・壽書 宮・半田支部に続 本

## 鬼 頭 翔雲名誉副会長 年 頭 所 感

第二十六回

壽

書

展



お慶びを申し上 謹んで新年の

げます。

現在会員数四六

立八十五年目、 本会は本年創

て各種事業推進に努めており ○○余名、公益社団法人とし

昨年は将棋の藤井四段が十

活動は心を清々しくさせてく になりました。若人の溌剌な う偉業を成し遂げ大きな話題 四歳の若さで二十九連勝とい 嬉しく思っております ど、若い人たちの意欲を感じ

好書道展」

において「愛知県・江蘇省友 昨年十一月には中国南京市 が開かれ、大村愛

書道文化発展のために 公益社団法人 中部日本書道会 くの本会会員も 知県知事共々多

校生を対象とした「書きぞめ 名誉副会長 本会においても小・中・高 鬼 頭 本展を開催することになって 翔 屋市において日年六月、当名古

毎年一万五千点を超えるな が事業の一つで、出品は います。本年も公益社団法と に寄与してまいる所存です。 の使命を胸に、書道文化発展 の書道展は、本 訪れました。こ

# 本会名誉会長代行

## 樽 本 樹 邨 生

中

第六十二回

現代書道二十人展 ご出品

숲 숲 場 平成三十年二月二十四日(土)~三月四日(日) 松坂屋美術館(松坂屋本店南館七階)

平成二十九年度

第一回評議員会

名古屋観光ホテル 平成三十年二月十八日(日) 十五時三十分

講 演 会 講 二月十八日(日) 師 春日井道風記念館館長 落合 十六時三十分~十七時三十分 氏

演 題 「小野道風は、こんな人だった」

> 第二十七回壽書展 次回開催予定

電気文化会館五階東・西ギャラリー

中日新聞 平成30年1月1日号より転載

難い中で、連日大勢の来場者とは言えない現状 され、長年にわたり書を生活の糧とされてきた 行っていく事が課題であると痛感した。 方々に鑑賞して頂き、公益性の有る催事として 否めず、今後ただ開催するだけではなく多くの 徒歩四分という会場のアクセスの不便さは考え る展覧会であった。しかし一方で、伏見駅から 方々のお気持ちが伝わり、見応えと優しさのあ 品まで多種多様な幅の広い作品の数々が陳列 家の熟達練磨された作品から書の愛好家の作 海部俊樹先生の軸作品「壽」をはじめ、プロ作 となった壽書展は本会会員百六十一人、会員外 (入場者数七百十四人) は何とも勿体無い感が 十七人の合計一七八人の出品があり、名誉会長 満七十歳以上を対象として二十六回目の開催

# 平成三十年十一月二十七日(火)~十二月二日(日) 45

会場風景



展覧会会場案内

# 平成二十九年度壽書展を終えて

第二事業部長 馬 場 紀 行 中

日

# 祝 名誉会長代行 樽 本 樹 邨 先

# 第四十九回東海テレビ文化賞 生

## ご受賞

## 受賞理由

# 中部書壇の向上、後身の育成に尽力》

芸術院賞を受賞、「現代書道二十人展」のメンバーとして 活躍、日展常務理事、中日書道会名誉会長代行の重責を 第四十回日展で文部科学大臣賞、平成二十二年には日本

(東海テレビ文化顕彰者ホームページより引用)



## 受賞理由

功労者表彰

長年にわたり書家として精進・研鑽を重ね幾多の秀作を 書道文化の振興に大いに貢献した。 発表するとともに、数多くの後進の指導育成にも尽力し、

日展会友・毎日書道展審査会員・中日書道会名誉副会長 の要職を歴任。

(愛知県表彰・教育文化功労者、功績内容より引用)







# 名誉副会長 安藤 滴水 先 生

# 第六十九回愛知県教育文化

祝

### 跡探訪研修旅行 史 友好書道展

中

11月21日(火)~11月23日(木・祝)

# 日中交流書展によせて

名誉副会長 安 藤 滴

水

お願いいたします。 日本書道会の会員です。どうぞよろしく 名古屋からやってまいりました、中部 みなさん、こんにちは。

と言ご挨拶申し上げます。

それでは、僭越ではございますが、ひ

脈々と継承されて両国が愛好する芸術と 史を持ち、日本にも伝来、日本人には憧 だいたことに深く感謝の意を表します。 なりました。 の文化は、どのような時代にあっても れの地であり、雄大な自然に育まれた書 ました。そして多くの人々にご尽力いた 峰省長先生からご提案され、実現いたし 知県知事が江蘇省に訪問された際、石泰 中国は書の故郷として悠久三千年の歴 この度の交流書展は昨年九月に大村愛

から、今回一同は胸躍らせてやってまい 表作家展が開催された時以来であります 二〇〇〇年に友好県省二十周年記念の代 二〇〇五年に開催されました日本での 私どもが江蘇省を訪問しましたのは

韓国、日本の三国で書展を開催いたしま のSho・日本の書」と銘打って、中国、 愛知万博では、本会が主になって「世界 した。中国からは啓功先生はじめ十六名

> 層心に深く浸透することになりました。 らしさに華を添えて下さいました。 少年に立派に継承されていくことも、 す。両国共通の書道芸術が将来を担う青 高い精神性を養う目標として、学校教育 かに充してくれる大きな力があります。 ますが、やはり手書き文字には、心を豊 現在は、ITの全盛時代といわれており の先生方も訪問していただき、書の素晴 でも、手書きの書が重要視されておりま 人々にも、書の持つ力、感動、魅力等 古くから「書は人なり」とも言われ、 それを機に書に携わっていない一般の

ございました。 派な席をもうけて下さり誠にありがとう 係と文化交流が一層促進されますよう、 祈念申し上げます。本日はこのような立 今日の交流書展を通じ、両国の友好関 来永劫歴史の発展と信じております。

拶とさせていただきます めて下さることを、お約束しまして、挨 屋にお越し下さり、本会会員と友好を深 じめ、関係の先生方には、ぜひとも名古 になっております。陳震寧副省長先生は 来年は日本国、名古屋で開催すること

式典での挨拶より

ありがとうございました。



陳震寧江蘇省副省長 挨拶



大村秀章愛知県知事 挨拶



安藤滴水名誉副会長 挨拶

### 第 187 号

## 平成29年度 公益社団法人 中部日本書道会 爱知県·江蘇省



友好書道展会場風景



友好書道展開幕式典



伊藤昌石常任顧問



鬼頭翔雲名誉副会長



樽本樹邨名誉会長代行

伊飯山廣上磯井磯津上伊横山村松平波中後木加片天大松岡伊関後伊鬼安樽 藤田中澤倉谷口和田田藤井内瀬浦松切林藤俣藤山野池下野藤根藤藤頭藤本 昌 瑤 桂 凌 積 凄 方 鴻 秋 賦 暁 宏 江 俊 華 采 童 啓 紫 矢 清 白 青 英 楠 仙 玉 汀 昌 翔 滴 樹 郷 華 山 舟 山 聴 燕 東 月 草 嶺 軒 鶴 彦 苑 桂 州 景 太 香 舟 洲 雲 岑 風 亭 游 振 鶯 石 雲 水 邨

梶吉谷山三長中鶴鶴田関志長長岡岩矢毛松原波高庄近黒國神鎌加岡岩伊野 原田岡口島島川見見中根村田田田崎島利下田野桑田藤野島谷倉藤田田藤 千 千 勝 凌 佳 瑞 蒼 翠 凌 玉 玲 裕 正 愛 翠 潮 恵 三 圭 香 嚴 華 梅 芝 英 緑 彩 秀 麗 緑 艸 熙等信司雲伯風雲川山翠香華嗣子風香風雪竹葉風鳳鶯香華泉風慧峰汀亭

加 者 名

席

上

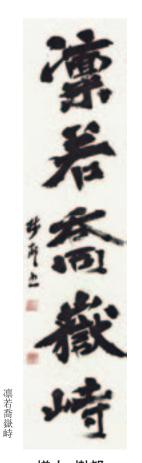
### 書道展の主な出展作品



鬼頭 翔雲 公益社団法人中部日本書道会 名誉副会長



安藤 滴水 公益社団法人中部日本書道会 名誉副会長



**樽本 樹邨** 公益社団法人中部日本書道会 名誉会長代行



愛知県知事 大村 秀章 公益社団法人中部日本書道会 名誉顧問



松下 英風 公益社団法人中部日本書道会 副理事長



**岡野 楠亭** 公益社団法人中部日本書道会 副理事長



伊藤 仙游 公益社団法人中部日本書道会 副理事長

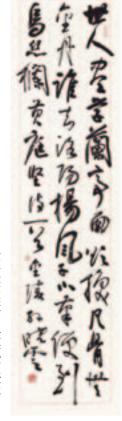


**関根 玉振** 公益社団法人中部日本書道会 理事長

슾

### 愛知県・江蘇省友好





孙晓云

江蘇省書法家協会副主席

谁知洛阳杨风子,下笔便到乌丝栏。世人尽学兰亭面,欲换凡骨无金丹。



中

日

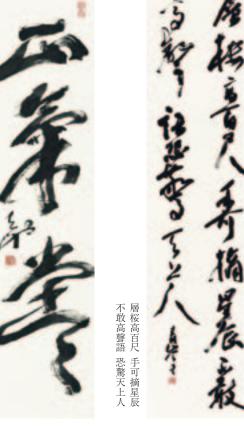


言恭达 中国書法家協会顧問



**尉天池** 江蘇省書法家協会名誉主席

正气堂堂



大池 青岑 公益社団法人中部日本書道会 事務局長



**王伟林** 江蘇省書法家協会副主席



李 啸 江蘇省書法家協会副主席

写到灵魂最深处,不知有我更无人。



徐利明 江蘇省書法家協会副主席



张 杰 江蘇省書法家協会副主席

# 国外史跡探訪研修旅行を終えて

(8)

第二企画部兼IT部長 上小倉 積

山

上海浦東空港に到着した我々は上海国際とが出来た。

展覧会場にて両国代表作家の作品を鑑賞の後、専用バスにて「愛知県・江蘇省交流に江蘇省文化庁総長の挨拶があり、続いて中国・日本両国の代表による席上揮毫会と中国・日本両国の代表による席上揮毫会となった。本会からは、樽本樹邨先生・鬼頭類雲先生・伊藤昌石先生が揮毫された。交翔雲先生・伊藤昌石先生が揮毫された。交翔雲先生・伊藤昌石先生が揮毫された。交別では、揚州八怪記念館にて鄭燮・金農揚州では、揚州八怪記念館にて鄭燮・金農りの資料を鑑賞し、再び宿泊先である南京らの資料を鑑賞し、再び宿泊先である南京らの資料を鑑賞し、再び宿泊先である南京

最終日、十一月二十三日は南京博物院へ、 最終日、十一月二十三日は南京博物院へ、 世本のた。中国東方航空にての帰国組は定刻 空港近くのホテルにて昼食の後、帰国と 空港近くのホテルにて昼食の後、帰国と 空港近くのホテルにて昼食の後、帰国と 空港近くのホテルにて昼食の後、帰国と 空港近くのホテルにて昼食の後、帰国と なった。中国東方航空にての帰国組は定刻 の帰国となったが、日本航空での帰国組は、 上海浦東空港の都合で約二時間遅れの帰国 となった。

な成果であったと考える。来、交流を深めることが出来たことは大きのような特別な式典に参加することが出員が無事帰国することが出来た。また、こ員が無事帰国することが出来た。また、こ

び開催される。 三十年六月に中日書道展と同じ会場にて再「愛知県・江蘇省友好書道展」は、平成



参加者集合写真

第二十九回書道教育研修会を

等それぞれの特長を説明いただいた後実技へ。かなの繊細

優雅さを感じられる講座でした。

である「高野切第三種」、「関戸本古今集」「小島切」「針切

## 道教育研修会

슾

日

平成29年10月9日 (月・祝)

中

名古屋国際センター 場所



書道講話 関根玉振理事長



漢字講座 荒木友梅先生



かな講座 清水春蘭先生



近代詩文書講座 佐野翠峰先生

# 舟

「著作権について」「作品制作の手順」等、

廣 澤 凌

一十九回書道教育研修会を開催いたしました(参加者七十 十月九日 (祝・月) 名古屋国際センター五階において第

だきました。実技では北宗の三大家の作品を臨書。真剣か 変遷」「草書の特長」をお話いただいた後、断筆(十七帖) 節筆(書譜)の筆遣いをボードを使い具体的にご説明いた つ楽しそうに紙に向かう受講生のお顔が印象的でした。 引用して先生が実践してこられた「諦めずに続けることの 大切さ」「書の勉強法」等をお話いただきました。 した。尊円法親王が著した書の故実書である「入木抄」を 漢字の荒木友梅先生は「草書を書く」と題して「書体の 講座に先立ち関根玉振理事長による書道講話が行われま

> 技を直接拝見出来感動しました。」「是非来年も参加した 四講座とも大変熱心なご指導で、受講生からは「巧みな 嬉しいお言葉をいただきました。

いただきました皆様にも重ねて御礼申し上げます。 いただきました先生方に厚く御礼申し上げます。 またお手伝いいただきました教育部の方々、お申し込み 最後になりましたが、ご多用中にも拘らず講師をお務め

「美しいかな~古筆と共に~」と

近代詩文書の佐野翠峰先生は「詩文書を楽しむ」と題し 実践に役立つお

篆刻講座 鈴木立齋先生

的にご指導いただきました。 話を丁寧にお話いただきました。実技では机間巡回し精力

とのお声をいただきました。 生に補刀していただき全く違う作品になり驚きました。 後実技へ。先生にお持ちいただいた(字入れ済)石に刀を 入れ添削していただくという流れで進行。受講生からは「先 篆刻の鈴木立齋先生は「一字印を刻してみよう」と題し 「篆刻の三法(字法・章法・刀法)」を説明いただいた



### 第21回 書の魅力 公開講座

平成29年11月26日(日) 電気文化会館 5階イベントホール 日時 場所

## 研究部長 武 内 峰

「平成二十九年度公開講座」を終えて

敏

方にご参加いただきました。 いて「第二十一回 十一月二十六日 (日)、名古屋電気文化会館イベントホールにお 書の魅力 公開講座」が開催され、九十八名の

れた料紙の数々を直接お見せくださり、平安王朝の書の雅に触れる ことができました。 入られたとのこと。今回の講座ではご自身が長年にわたって収集さ と題して理事・村瀬俊彦先生のお話が始まりました。 関根玉振理事長の開会のご挨拶の後、第一講座「『かな』あれこれ 村瀬先生は「かな」とその料紙の美しさに魅せられて書の世界に

第二講座は「書の五目話」と題して理事・工藤俊朴先生にお話い 二年間の教育者としての経験か ただきました。工藤先生は四十 「書」「書道」「書写」につ

生に厚く御礼申し上げます。 した村瀬俊彦先生、工藤俊朴先 終始熱心にご講演いただきす 文責 下村汀柳

かな資料を拝見する参加者

くご説明くださいました。

て多くの資料を示され分りやす いて、また「書の歴史」につい



第2講座 工藤俊朴先生



第1講座 村瀬俊彦先生



の皆様、 がりました。 力頂きました皆 きました協賛会員 上げます。 難うございました。 心よりお礼申 この催しにご協 賞品を提供頂 本当に有

# ボウリング大会を終えて会 員 交 流

厚生部長 古 III昇 史

ラッキーナンバー抽選会が発表され盛り上 られました。

樽本名誉会長代行より

乾杯の ご発声で懇親会が始まり、 邨名誉会長代行よりトロフィと記念品が贈 木玄齊氏、女性一位米津美華氏に、樽本樹 競い合いました。ゲーム終了後、パー 鬼頭翔雲名誉副会長お二人の、 星ヶ丘ボウルで平成二十九年度中部日本書 ルームにて懇親会と成績発表。男性一位高 三十四名・女性五十六名)の参加者で腕を われゲーム開始されました。九十名(男性 ただき、つづいて、安藤滴水名誉副会長、 した。始めに関根玉振理事長のご挨拶をい 道会会員交流ボウリング大会が開催されま 去る十二月十日  $\widehat{\mathbb{H}}$ 午後一時三十分 和やかに進み、 始球式が行 ・ティ

(11)

げます。

報

改組

新

第

兀

В

展

入

選

者

# 日 展特選を受賞して

H

展特選を受賞して



Ш 合 玄

## 鳳



木 立 齌

これも偏に審査に携わられました諸先生はじめ中日書 の御言葉の御蔭で書を続けて来られたからと感謝して 道会の諸先生方・仲間の日頃からの御指導と、 特選受賞の報せは正に青天の霹靂。体が震えました。 励まし

偶然に出来た一作です。 回の作品も、その声に応えるように書き進めていく中で け!!」と今でも空の上から師の声が聞こえてきます。 手く書くのか下手に書くのかどちらかにしろ!腹で書 不器用な上につい筆先だけで書いてしまう私です。「上 典臨書を通じての作品造りを一から教えて頂きました。 大学入学を機に今は亡き金子卓義先生に師事し、 古

中

日

選 三 好 達 治

くお願い申し上 ますよう宜し 御鞭撻を賜り 更なる御指導・

う日々精進して いく覚悟です。 名に恥じぬよ 今後も賞の

> と、諸先輩方の御高配の賜と深く感謝いたしております。 特選をお与え下さりまして、大変恐縮いたしております。 いところです。 文印、朱文印ともその延長線上にあるかどうか、悩まし これも偏に、 この度は、 伝統を重んじた作品創りをと心がけておりますが、 改組 審査にあたられました諸先生方の御厚情 新 第四回日展におきまして、再度の 鈴

ます。 たが、さまざまな方向性を模索すべく心新たにしており 呉昌碩系の作風に心惹かれ、 本作の根幹ともなりまし

とめました。 わかりやすい語句を用い、款拓、 落款を付し全体をま

特 選 諸 葛 孔 明 語 他

o 上

Щ 前 野 野

上 塚 水

峯 慧

清

水

春

0

雅

風

0

Щ 松 久

みね子

平

巳 旺

○宮

田

洋

大工山藤

俊

朴

由美子

何卒、尚一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。



小 磯 山 梶

島 谷

> 凄 雲 盛

風 舟 草 可 蘭 美

静岡県

○浅

秋 瑞

華 月 聴 峰 涛 子 翠 泉

真

鈴 合 木

選

立 玄

○堀

清

井 中

桃 桂

先

風鳳溪江丘山渓

紅

吉 松

澤

|岐子

久

明

草 伊 服衣若水成 中 柘 小 磯 馬 鈴 加 佐 朝 部 島 場 藤 藤 尚 田 藤 Ш 杉 野 田 野 貝 木 美枝子 弘 紀 慶 子 馨 昌 彰 美 佑 尚 玉 英 瑞 香 石 香 華 子 英 峰 柳 子 行 鵬 雲 雲 皓 子

白

0

高 尚 伊 荒 荒

橋 野 藤

月鳳堂

0

玉

子 冰

愛知県 齌 鳳 ○ 鈴 ○足 〇青 0 ○鵜 о Ш 寺 森 片  $\mathbb{H}$ 大 天 高 近 柿 香 小倉 立 池 野 木 尾 木  $\mathbb{H}$ 藤 木 山 中 餇 谷 月  $\Box$ 木 月 雲 桑 紅 積 昌 麗 美 冬 律 敬 采 恵 青 香 清 石 清 青 俊 幸 清 峰 林 舟 宏 華 洮 苑 洲 華 洲 雲 波 岑 舟 子 邑 里 彦 Щ 江 月

○加

玉

酒 鈴 今 林 今 Щ

 $\circ$ 

丹

羽 藤 向 木 田

保 華

三重

子

〇 田 戸 岐阜県 藤 崎 小 翠 尚 秀 游 虹

加 石 遠

慧

小 [〇印は初入選] 野 蹊 泉

表での名簿順とな 展ホームページ発 展市ームページ発

一、

## 第六十八回 日 道 展 出 品 規 程 抜粋

							一、会場・会期
依嘱・無鑑査作品	▼名古屋市博物館		▼名古屋市民ギャラリー栄		▼電気文化会館		会場・会期 ▼電気文化会館
	民告	———— 平成三十年六月	・ラリー栄	———— 平成三十年六月	東ギャラリー・イベントホール	———— 平成三十年六月	東・西ギャラリー
平成三十年六月 二十日(水)~六月二十四日(日)		平成三十年六月 十九日(火)~六月二十四日(日)		平成三十年六月 十九日(火)~六月二十四日(日)	ル	五日(火)~六月 十日(日)	
				_	_		

一科作品-· 平成三十年六月二十七日(水)·六月二十八日(木)

二科作品 - 平成三十年六月 三十日(土)·七月

一日(日)

一、

祝 授

\_

賞

式

※電気文化会館 西ギャラリー

- 平成三十年六月十九日(火)~六月二十四日(日)は 愛知県・江蘇省友好書道展の展示

報

出

品 部 門 第一部 第四部 少字数 漢字 第二部 第五部 篆刻・刻字 か な 第三部 近代詩文

一、 出 品 資 格 十五歳以上(平成十五年四月一日生まれ以前)の者とする。(但し十五歳から で〕は証明書〔免許証、学生証、保険証等のコピー〕を提出する。) 一十一歳までの者〔平成八年四月二日生まれから平成十五年四月一日生まれま

## 出 品 点 数 出品は一人一点とし、二部門にわたる出品は認めない。

出 品 寸 法 各資格の出品規程に記載する作品寸法とする。

出 品 料 各資格の出品規程に記載の出品料とする。

年 슾 費 正会員の年会費は、本年度出品、不出品にかかわらず納入するものとする。

一、 資 格 喪 失 (止むを得ない事情で出品できない時は、その旨本部へ書類を提出すること) 科・展覧会役員で二年連続不出品の場合はその資格を失うものとする。

查 日 程 ·一科作品 平成三十年五月 二十日(日)平成三十年五月 十九日(土) 午前九時十分~ 午前九時十分~

一、

審

特別賞選考 平成三十年五月二十一日(月) 午前九時十分~

員 特別賞選考委員は、依嘱・無鑑査作品の審査にあたる。

\_

審

査

・一科審査員は、一科作品の審査にあたる。

二科審査員は、二科作品の審査にあたる

褒 賞 優秀作品に左記の賞を贈る。

二科賞 [二点]·奨励賞 [一点]·佳作 [〇·五点]

·一科作品-推薦 [三点]·特選 [二点]·準特選 [一点]·秀逸 [〇·五点]

> 無鑑査作品 中日賞・桜花賞

依嘱作品 海部俊樹賞・大賞・準大賞

昇格規定 各資格において次の基準を満たすとき昇格する

· 一 科 昇 格| ― 二科において総点三点に達した者

無鑑查昇格一 — 一科において総点五点に達した者

嘱 昇 格 - 無鑑査において中日賞、桜花賞を受賞した者

二科審査員昇格 ---依 - 依嘱において海部俊樹賞、大賞、準大賞を受賞した者

賀 숲 平成三十年六月二十四日(日) ウェスティンナゴヤキャッスル 午後六時より

平成三十年六月二十四日(日) ウェスティンナゴヤキャッスル 午後三時半より (予定)

[参加は二十歳以上に限る。]

場 料 三〇〇円(小・中・高校生は無料)、資格証により入場できる。

一、 入

一、書類搬入等 書類搬入はすべて取扱い店がいたしますので、出品者は事前に取扱い店へ出品 票、出品料、協賛費などご提出下さい。

締切りは四月十三日(金)までとさせていただきます。

よる書類搬入、作品搬入、搬出は認めませんのでご注意下さい。 中日書道展出品の全作品は、整理の都合上取扱い店に委託する事とし、個人に

類搬入時に納入していただきます。 ※正会員(展覧会役員及び一科会員)の年会費も、取扱い店へ委託し、 書

一、その他 注 意事 項 の りましたら赤字で訂正して下さい。 出品票には、住所、姓号、生年月日等が印字してありますので変更や誤りがあ

紛失した場合は、公益社団法人中部日本書道会本部へご請求下さい。

過ぎても搬出されない場合は、作品保管の責任は負いません。 搬入・搬出については、取扱い店に連絡を取ってください。所定の搬出時間を

※出品票は、本会会員の方及び会員外で昨年度ご出品の方は、本部から送付し たものをご使用下さい。会員以外の方で新規出品の方は、事前に指導者もし くは取扱店を通じて本部へご申請下さい。本部からご本人に出品票をお送り

※新規出品の十五歳から二十一歳(平成八年四月二日生まれから平成十五年四 を出品票に添付して下さい。 月一日生まれまで)の方は、証明書〔免許証、学生証、保険証等のコピー〕 します。(申請最終締切三月三十一日)

出品料・協賛費は理由の如何を問わず返却いたしません。

※本年度不出品者(正会員)の年会費は、後日郵送する振込用紙で納入してい

※授賞式・祝賀会の期日および会場等は予定であり、変更される場合もあります。

# 第六十八回中日書道展作品展示会場

六月 三十日 (土) ~ 七月 一日 (日)	一~五部 全作品	二
六月二十七日(水)~ 六月二十八日(木)	一~五部 全作品	一
六月 二十日 (水) ~ 六月二十四日 (日)	一~五部 全作品	依嘱·無鑑查
	館	名古屋市博物
二部~五部	二~五部作品	二科審査会員
六月十九日 (火) ~ 六月二十四日 (日)	I	名古屋市民ギャラリー
一部	一部作品	二科審査会員
六月 五日 (火) ~ 六月 十日 (日)	ベラリー	電気文化会館 東・西ギャラリー
一部〜五部	一~五部 全作品	一科審查会員 田田 田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田
六月十九日 (火) ~ 六月二十四日 (日)	東ギャラリー イベントホール	電気文化会館(東ギャラロ

・期日に遅れた作品、書類搬入のない作品は受け付けない。

※愛知県・江蘇省友好書道展は電気文化会館西ギャラリーにおいて六月十九日 (火)~二十四日 まで開催されます

# 審査顧問から無鑑査までの出品について 作品寸法

### 展覧会役員作品 依 特 審 科審查会員 科審查会員 資 別 査 出 顧 格 查 嘱 品 問 種別 Α ВА ВА В ВА ВА |○·九一m(三 尺)×○·九一m(三 尺)〃 |一·七六m(五·八尺)×○·四八m(一·六尺)額(縦横自由) ○・九一m(三 尺)×○・九一m(三 尺) 一・七六m(五・八尺)×○・四八m(一・六尺)額(縦横自由) ○·九一m (三 尺)×○·九一m (三 尺)〃 (元十八尺)×○·四八m (一·六尺)額 (縦横自由) 〇.九一m(三 ・九一m(三 尺)×○·九一m(三 尺)・七六m(五·八尺)×○・四八m(一・六尺)棒張り )・九一m (三 尺) × ○・九一m (三 尺) 〃 (縦横自由) 作 品 形式及び 仕 上りす 法(五部は除く) (縦横自由) | 11、000円 二、〇〇〇円 四 四、〇〇〇円 協 ,000円 000円 賛 費 評理参监 年 111、000円 一四、〇〇〇円 二、〇〇〇円 会 八、〇〇〇円 八、〇〇〇円 費 等

中

日

審査顧問から無鑑査の作品寸法は右記の通りとする。

〇.九一m(三

- 部とも共通 依嘱・無鑑査の作品は「裏打ち」作品で搬入すること。 (第一部·第二部·第三部 第 兀
- 付けません。 今回は会場の都合により一科審以上・二科審・依嘱・無鑑査の作品で、 帖 巻子は、 受け
- 篆刻は、二印以内で印影のみとしアクリル入り額装とする。仕上がり寸法 ×横○·三m。 縦〇·三九
- 刻字は一m平方以内とする。
- 無鑑査の作品はアクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。 (但し、 五部は除く)
- 依嘱以上の作品はアクリル入りとする。(第一部~第五部)
- 一·七六m(五·八尺)×〇·四八m(一·六尺)サイズについては半切額を認めない

## 科出品について

## 一、作品寸法

科

# 科作品 (一科会員に限る)

						_				100	,
	K	J	Ι	Η	G	F	Е	D	С	種別	1
占・巻子(十去は闌十己哉りこさ)	二·一二m(七 尺)×〇·七〇m(二·三尺)〃( 〃 )	〇·九一m(三 尺)×一·二一m(四 尺)〃( 〃 )	〇·七五m(二·四尺)×一·五二m(五 尺)〃(縦横自由)	· ·	二·四二m(八 尺)×〇·六一m(二 尺)〃( 〃 )	一・○六m (三・五尺)×一・三六m (四・五尺)〃( ̄〃 ̄) ̄	一·八二m(六 尺)×○·六一m(二 尺)〃( 〃 )	一·八二m(六 尺)×○·七九m(二·六尺)〃( 〃 )	一·七六m(五·八尺)×○·八五m(二·八尺)枠(縦横自由)	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	
				† () () ()	七、000月					出品料	
				) () () ()	て、 つ つ の の の の の の の の の の の の の					年会費	

- 品料に表装料を含め五、〇〇〇円とする。 十五歳から二十一歳(平成八年四月二日生まれから平成十五年四月一日生まれまで)の方は、出 (帖・巻子の出品は認めない 十八歳以上は要年会費)
- 作品寸法は右記の通りとする。
- 作品は、すべて「裏打ち」作品で搬入すること。第一部・第二部・第三部・第四部とも共通本年度もG[二・四二m(八尺)×〇・六一m(二尺)]は縦横自由とする。
- 作品は、創作又は臨書とする。
- 作品は、「枠張り」仕上りとする。(一部~四部)
- 帖は見開き横○・七m以内。
- 巻子及び帖(第一部~第三部)は、
- 篆刻は、二印以内で印影のみとしアクリル入り額装とする。 仕上り寸法 縦○·三九m×横○·三m。 縦〇·三五m×横四m以内 (但し、審査終了後となります。)
- 刻字は、一m平方以内とする。
- アクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。 (但し五部を除く)

## 二科出品について

## 作品寸法

## 二科作品 (準会員二科公募)

	=	科	
	В	Α	種別
帖 ・ 巻子(寸法は欄外記載のとおり)	〇·九一m (三 尺)×〇·九一m (三 尺)枠	一·七六m(五·八尺)×○·四八m(一·六尺)枠(縦横自由)	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)
	七、〇〇〇円		出品料

- 出品料に表装料を含め五、〇〇〇円とする。(帖・巻子の出品は認めない。)十五歳から二十一歳(平成八年四月二日生まれから平成十五年四月一日生まれまで)の方は、
- 作品寸法は右記の通りとする。
- 作品は、すべて「裏打ち」作品で搬入すること。 第一部・第二部・第三部・第四部とも共通
- 作品は、創作又は臨書とする。
- 作品は、「枠張り」仕上りとする。 (一部~四部
- 帖は見開き横○・七m以内。
- 篆刻は、二印以内で印影のみとしアクリル入り額装とする。巻子及び帖(第一部~第三部)は、縦○・三五m×横二m。 仕上り寸法 縦○・三九m×横○・三m。 (但し、審査終了後となります。)
- 刻字は、一m平方以内とする。
- 一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)については半切額を認めない。
- アクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し五部を除く)
- 重量は四キログラムを超えないこと。

込して下さい。)

## (14)第六十八回

中日書道展出品について

(取扱い店の皆様へ)

書類搬入 (一科会員・展覧会役員の方については、 所定の出品票を四月十八日(水)に中部日本書道会本部へ書類搬入してください。 出品料と共に年会費および協賛費を振

- 新規出品の十五歳から二十一歳(平成八年四月二日生まれから平成十五年四月一日生 まれまで)の方は、証明書(免許証、学生証、保険証等のコピー)を添付して下さい。
- 新規出品者は事前に本部に申請していただき、本部より出品票を本人宛お送りします。
- 作品の搬入・搬出について

書類搬入がされていない作品は受付けません。

- ・個人による搬入・搬出は受付いたしません。作品取扱い店に委託してください。
- 愛知県産業労働センター八階展示場に搬入。 依嘱・無鑑査・一科・二科の裏打ち作品—五月十八日(金)午前九時半~午前十一時
- 展覧会の搬入・搬出について

電気文化会館東西ギャラリー 搬入·陳列一六月 十日(日)午後三時 四日(月)午後一時 午後五時

電気文化会館東ギャラリー・イベントホール 搬入·陳列—六月 出—六月 十八日(月)午前九時半~ 午後五時 午後五時

名古屋市民ギャラリー 栄 搬入·陳列 出一六月 一六月 一十四日(日)午後三時 |十四日(日)午後四時半~午後六時 十八日(月)午後一時 午後五時 午後五時

# 名古屋市博物館ギャラリー

中

依嘱·無鑑查作品 依嘱·無鑑查作品 二科 搬出 一科搬入(掛替)-搬入·陳列 科搬出:二科搬入(掛替)-科作品 作品 陳列-陳列 一六月二十六日(火)午後二時 -- 六月 六月二十九日(金)午前九時半~正 六月二十六日(火)午前九時半 一十九日(金)午後二時 十九日(火)午後一時 ( - 午後五時 午後五時 É 午後五時

作品寸法(仕上り寸法)について

科

作

밆

搬出

—七月

一日(日)午後三時

~午後五時

(株) (有) 創 (株) (株) (有)

- ・二科・一科・展覧会役員の作品は定められた「仕上り寸法」とし、 け付けません。 それ以外は受
- 審査顧問、一科審査員、二科審査員、 しの枠張りといたします 依嘱はアクリル入り、 無鑑査はアクリル
- 今回は会場の都合により一科審以上・二科審・依嘱・無鑑査の作品で、 受け付けません。 帖・巻子

松 西

### 作 品 取 扱 店

書遊川 名古屋キョ 書遊平野筆墨堂 株名古屋ホウコドウ [川堂森表具店 陽 岡 松 藤 藤 黒 井 菊 吸 屋 荘 新 盛 應 大 源 青 青 伽 堂 本 表 梧 屋 長 楽 大 Ŧi. 表 頌 玄 文 春霞堂 月 天 紙 工 柳 雲 泉 堂 具 商 寿 林 雲 竹 具 文 和 堂 堂 堂 店 店 店 堂 堂 堂 堂 堂 堂 店 堂 堂 堂 (株) 房 藍 堂 三咒--0六兰 一宮市下田二-四-二五 -○○○○ 春日井市八事町一-一九○-三-三 壹○○-八二元 岐阜市須賀一 - 八 - 二五 三四六-000八 安城市今本町三-一-一五 | E四二-000m 名古屋市北区若鶴町三四四- | E四三-00三 名古屋市守山区大森一-二七○一 L四至-0八三 小牧市東二-五四四 三 一00 名古屋市中村区太閤一-一六-二三 <del>玉</del>10-00八 四日市市北町三-四 〒五0一-||七二 - 翌三-0八三 名古屋市西区あし原町六八-一 〒四七八-00一七 **| 四穴○-000八名古屋市中区栄四-一-八(中区役所ビルーF)** 〒四六0-000七 蓝三-0公园 名古屋市中村区豊国通四 −四六 MM 名古屋市緑区若田三-一〇六 置代0-00 | 名古屋市中区大須三-八-一○ MSI-00公三名古屋市西区押切二-二-一三 M四芸-000四 名古屋市名東区香南一-五〇七(季川コーボード) 知多市新知宝泉坊三〇-一 名古屋市中区新栄二-一-四六 岐阜市下鵜飼一四六八 電(〇五二)二五九-〇三一三 電(〇五二)七七六-一八八 電(〇五二)二六三-九四〇 電⟨○五六八⟩八九-七七八八 電(〇五六二)五五-〇五一七 電(〇五二)九〇一-〇五一四 電(〇五六八)七五-〇二八一 電(〇五六五)三二-〇八六三 電(〇五二)二四一-一一四五 電(〇五二)二四二-七七四 電(〇五二)四五二-四七五 電⟨○五八⟩二三九-五二○○ 電(〇五二)五〇四-二七〇三 電(〇五六九)二一一二五七二 電(〇五八六)七二-三六二九 電(〇五八)二七一-二六六二 電(〇五二)六二九-五〇三五 電(〇五六六)九八-二三三三 電(〇五二)七九八一六六五 電(〇五二)四四四-八〇二四 電(〇五二)九三一 - 六九四八 電〈○五二〉五二一一三二一一 電(〇五九)三五二一六〇一〇 電(〇五六三)五四-二〇五三 電(〇五二)四一二-七八六二

小 金 (有) (有) (有) 加 魁 (有) (株) 永 伊 石 浅

### 第 187 号

		_
	二月二	
	月二十二日	-
	木	2.5
第六十八回	書類発送	
中	中部日	
日	-部日本書道会本部	
書	午	
道	前九時半~午後四	
展	後四時	
	_	Г

搬出 午後三時~午後五時	第六日		日	二十四日	
午前十時~午後六時	第五日		土	二十三日	
午前十時~午後六時	第四日		金	二十二日	
午前十時~午後六時	第三日		木	二十一日	
午前十時~午後六時	第二日		水	二十日	
午前十時~午後六時	特別出品・一科審査会員作品 第一日	審査顧問・	火	十九日	
陳列 午後一時 ~午後五時 搬入 午前九時半~午後五時	- 愛知県・江蘇省友好書道展 特別出品・一科審査会員(一部〜五部-・イベントホール	東ギャラリー	月	月十八日	六月
PE	リー・イベントホール 五階	東ギャラリ	館	電気文化会館	雷
搬出 午後三時~午後五時	第六日	"	日	十日	
午前十時~午後六時	第五日	"	土	九日	
午前十時~午後六時	第四日	"	金	八日	
午前十時~午後六時	第三日	"	木	七日	
午前十時~午後六時	第二日	"	水	六日	
午前十時~午後六時	9作品展示 第一日	二科審查会員作品展示	火	五日	
陳列 午後一時~午後五時	5作品搬入・陳列(一部)	二一科審査会員作品搬入	月	月四日	六月
	西ギャラリー 五階	東・西ギ	館	電気文化会館	雷
午後三時~午後五時	出	裏打ち作品搬出	J	- - - I	
午前九時~午後三時	(依嘱・無鑑査)	特別賞選考(依嘱	]	-	
自力に	— 立	一科·鑑審査	日	二十日	
一	一·	二科・鑑審査	土	十九日	
午前九時~午後五時	4・一科・二科裏打ち作品搬入	依嘱・無鑑査	金	五月 十八日	五.
	八階	働センター	労	愛知県産業労働セン	愛
部 作業 午後三時まで	(業者)本部へ 中部日本書道会本部	書類搬入	水	十八日	
	<b>冶へ</b> )	書類(取扱店へ)	金	四月 十三日	四
部 午前九時半~午後四時	中部日本書道会本部	書類発送	木	二月二十二日	

中

日

## 道 展 日 程 表

Î Î		:	
四時	名古屋市民ギャラリ	マャラリー栄 八階	
十一時半	六月十八日日	月   二科審査会員作品搬入・陳列(二部~五部	部) 陳列 午後一時~午後五時
**で	十九日	火 二科審査会員作品展示 第一日	午前九時半~午後六時
	二十日	水 第二日	午前九時半~午後六時
持 	二十一日 +	木 第三日	午前九時半~午後六時
1	二十二日 ~	金 第四日	午前九時半~午後六時
· 時	二十三日	土 第五日	午前九時半~午後六時
寺	二十四日	日 第六日	搬出 午後四時半~午後六時
時一時	名古屋市博物館	9館 三階	
	六月 十九日 七	火 依嘱・無鑑査作品搬入・陳列	陳列 午後一時~午後五時
午後五時	二十日	水 依嘱・無鑑査作品展示 第一日	午前九時半~午後五時
1	二十一日	木 第二日	午前九時半~午後五時
時	二十二日 ~	金 第三日	午前九時半~午後五時
時	二十三日	土 第四日	午前九時半~午後五時
時	二十四日	日	午前九時半~午後五時
時	二十五日	月 休 館 日	午前九時半~午後五時
, 午後 五時	二十六日	火佐嘱・無鑑査作品搬出・一科搬入	一科搬入 一种搬入
		一科陳列	陳列 午後二時~午後五時
(主壬以上) 〜午後五時	二十七日	水 一科展覧会 第一日	午前九時半~午後五時
~午後五時	二十八日	木 第二日	午前九時半~午後五時
持時		金 一科搬出・二科搬入	二科搬入 午前九時半~正午
時一時		二科陳列	陳列 午後二時~午後五時
時	三十日	土 二科展覧会 第一日	午前九時半~午後五時
     	七月 一日日	日 第二日	搬出 午後三時~午後五時
こえによ			

※授賞式・祝賀会 六月二十四日(日) ウェスティンナゴヤキャスル(予定)

中部日本書道会

務局に届けた。

古屋市中区の事業団

年末助け合いに」と寄託

募

金 参

加 者

芳 名

会員の皆様の温かいお心に感謝いたします。

## ―しあわせ薄い人々に愛の手を― チャリティー愛の

中日新聞社会事業団に200万 東海テレビ福祉文化事業団に 100万 寄託 各支部より各県の中日新聞経由にて 80万

大池 天野 岡野

報

加藤 加藤

鈴木 後藤 工藤 木俣 川﨑

山本 山際 山内 松浦 佐

上田 井野 後藤 落合 今井 松 屋 田 藤 吟紅 深淵 賦草 仙童 秀川 陽山 玄夏

団に寄託した。
動のために」と二百万 関根玉振理事長—**写真** 千三百人から寄せられ東海三県の会員約四 た同会の「愛の募金」。 「年末助け合い運産市中村区)は十一甲部日本書道会(名

中日新聞 2017.12.13 (水)

中島 早川 丹羽 富田 寺田 辻 田中 長谷部青徑 松翠 泰山

青山 朝比奈祥鳳

戸谷 松岡 古川 中

生田 家田 飯沼 伊佐次雪華 伊佐治祥雲 琴舟 静歩 蘇道 佳舟 江泉

市川 磯貝 磯谷 石原 市川 市川 石原 石原 石原 石田 石田 石田 松扇 聚芳 伊藤

伊奈 伊藤 伊藤 伊藤 伊藤 伊藤 伊藤 伊藤 稲垣 稲垣 稲垣 京 美 玲香 龍仙 芳香 文惠 美泉

局長栗田秀之 氏に十万円を 団の「年末助 新聞社会事業 に」と一宮総 合 1 · 運 動



中日新聞一宮総局へ支部長川浦碧濤氏 平成二十九年十二月十九日伙 〈一宮支部〉

報

会

氏が伺い、支 局長田中修文 系権氏、事務 局長都築修氏 に十万円を寄

白 竹羊 香



## (半田支部)

(木)

岩入井今今今伊井井谷村田枝井井吹深 節 桃 芝 香 紅溪 代美 内 内 内山 本 田 後田 牛田 宇佐 上松 上前 梅田 上田 **企**香 早苗 塩谷 遠藤 遠藤 大鹿 大﨑 大大大木上 大鐘

澄泉 憧花 紫陽 青嵐 奥田 荻原 小小岡川本 岡野 岡地 岡田 緒方 岡田 岡田 岡田 岡崎 大森 大原 大野 大塚 琴風 鴎風 香鶴 翔鳳 恵香 恵鶴 一樹氏抱 加藤 梶 加山島 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 加藤 勝海 加地 片 片山 原 梶田 籠瀬 笠原喜美江 尾之内柳雪 小野田景月 芝香 河川河河河川川川川川河河河川原出津内田角島崎口浦合合合合 川河川苅苅亀亀合合井谷田山井 河原 上小倉 積山 飛園 蘭香 翠山 酔光 翠 月 採星 玄鳳 桂舟 漁舟 伸風 日下部みゆき 素 倉倉倉倉熊田田田内崎 國島 工藤 葛谷 草野 工藤 木木木村村村 木全 久保田清葉 英華 茜邑 子鴎 秀佳 恵園 小 小 小 小 小 小 香嶋 島 島 島 嶋 島 坂 村 纐纈 小宇佐久美 千翠 雪舟 瑞月 真海 瑞柳 榊 酒 坂原 井 井 齋藤 近藤 酒瀬川 近藤 近藤 佐々木宏潤 佐久美泉涯 近藤由紀枝 美薔 香風 由果 白井 下郷 清清清清水水水水 柴 柴 柴 柴 柴 篠間 田 田 田 田 田 田 田 式守 澤田 澁谷 白井美喜子 東海林蕗子 志 水 志水 澄 園 翠芳 好春流汀 憬堂 玉華 鳴風 秀瑤 桃花 華逕 明琴 春蘭 恵水 厚実 鶴泉 緑風 菅 杉 杉 杉 生 山 本 田 杉江 鈴木 鈴 鈴木 木 鈴 鈴木 木 杉坂 杉浦 かよ子 葵風 華瑶 花園 雲峰 功子 攝堂 瓊川 京節扇子 育子 遙岑 新 琇 香萩 京楓 凍 千 石 青 静山 恵 城 楓 香 清木美智子 世古口 高田千仙井尾田石 瀬古 関戸 角 鈴 鈴 鈴 谷 木 木 木 高橋 高橋 高田 髙田 高桑 高木 髙木 髙木 髙木 高井 鈴木

光紅齊

東里 香園 穂昂 京華 祥香 大虚 玉扇

蒼玄 海越

麗

玉雲

蘭

芳春

武山 武山 田島 昂石 朝路 玉穂 戸松 戸田 戸崎 築山 多和 玉樹 寺尾 坪井 坪井 角田 角田 都筑 都築 土屋 土屋 津田 對馬 塚本 塚田 種田 杤久保律子 L み な み 田墨濤 和泉 春聲 松鶴 紫邑 剛 永 中島 坂 永坂 中 中 中 中 中 川 川 川 川 中 中 永 永 永 田 田 瀬 瀬 内藤 永平巳旺子 中野世津香 中島祐三子 長坂多津子 永谷加代子 西 西 育子 華風 和則 俊香 海童 和香 珠香 麗香 野野野野田田倉口 丹羽 萩原 萩野 則武 野口 庭 丹田 羽 丹羽 丹羽 丹羽 仁田 西川 新美 長屋 中 中 野 野 中 中中 西 Þ 田 美 中 垣 はる美 紀代子 脇京華 原 曽川 春蘭 深苑 暁峰 清城 佳楊 梅芳 美茜 峰 茜 珠光 峰泉 曽南 虹 青 苮 麗 穹 袁 早川 早川 幅上 花井 服部 服部 服部 花井 服部 長谷川 長谷川 長谷川 林 林 服部美枝子 波多野 長谷川 林 野江楓 I 道 山 香葉 鸞卿 滴水 恵玉 華香 紫州 平松 平 平原 野 平野 平野 平野 平賀 平岡 坂野 坂野 阪野 広井 平 半  $\mathbb{H}$ 原 原  $\mathbb{H}$ 日比野寿翠 H 比野 江井芝香 野 比野翠春 田  $\mathbb{H}$ 田 賀 美風 妃扇 秀園 妙紅 竹童 皓月 芳碩 美扇 公慎 公鶴 小波 前田千が 前島 堀部 堀場 堀内 堀田 堀田 星野 古田 古川 藤田 藤田 本田 穂積 古田 古川 夫馬 瀬 佐喜子 爽風 蘭雪 祥扇 侃司 花渓 春園 真徳 花 松崎 真野 水野 松元 松元 松本 松原 松野 松田 松田 松田 松田 松田 松下 松下 松下 松澤 松崎 松佐古溪水 水野さと子 武義 青漣 華月 三雪 紫園 良園 秋芳 村井 美濃羽 皆 三 橋 村瀬 宮田 宮田 溝 向 溝 溝 三輪田香苑 城開 季舟 凌慶 富山 嗣恵 大仙 山山山山山山山山山口口口口岸川川川内 矢野 矢島 森本 森下 桃 物井 部 山内 箭野 梁川 矢田 安田 保田 八木 森 森森森森森森森森森森 安田 П 年子 翠嵐 翠渓 潮香 久美 晶月 隆城 翠風 景雲 雪篁 彩花 夏溪 政子 冬華 翠葉 翠芳 紀香 邦 孝山 子 杉徑

 山崎
 富泉
 山田
 蹋

 山田
 6
 1
 山田
 山田
 山田
 点

 山田
 6
 1
 山田
 山田
 山田
 点
 山田
 山田
 点
 山田
 点
 山田
 山田
 点
 山田
 山田</td

真=が中日新聞岡崎支

◆会員の善意を寄託 中部日本書道会西三 神帝支部長りか会員か がた募金のうち10万円 がた募金のうち10万円 を、中日新聞社会事業 を、中日新聞社会事業 を、中日新聞社会事業

(西三河支部)

中日新聞 2017.12.19火

五万円、

恵那通信

局長福本正則氏に として中津川通信

五万円を寄託。 局長吉岡雅幸氏に

### 第 187 号

江楓

和子

峰燕

真。局長に手渡した=宮 |局長に手渡した=写豊橋総局で八木光世総



## 年末助け合い寄託 (東三河支部) 中部日本書道会支部

末助け合い運動」に十 下円を寄託した。 毎年末の取り組みで、支部会員に寄付を が、豊橋市の中日新聞 が、豊橋市の中日新聞 河支部は二十日、中日中部日本書道会東三 新聞社会事業団の「 十年 中日新聞 2017.12.21(木)

日

(濃飛支部)

と事業部長林幸湖 中日新聞各支局へ 十二月二十一日 平成二十九年 支部長石原聲風氏 が伺い、「年末



助け合い義援金」



青木 青木 青木 渡辺 渡辺 渡辺 渡辺 渡津 和田 渡辺悠記子 北嶺 月潭 慶心 鶴山 房江 玉繡 峰澐 足立 味岡 浅野 浅野 浅野 浅川 浅井 浅井 浅井 秋田 浅井登志子 華奈 都鸞 清泉 和生 井 桁 池田 猪飼 飯田 飯田 飯田 石川 石泉 伊澤美紀子 安藤 安藤

板倉 磯貝 石本 石原 市 磯部ユリ子 泉 石橋 石橋 石塚 石田 石田 石黒 石黒 石川 石川 石川 石川 市 五十川藤華 石原千砂子 石倉 石川 石川 Ш Ш 麗水 好子 悠川 舜華 遊貴 茜華 裕彩 鳴洲 伊藤 伊藤 伊藤 伊藤 稲 稲 井戸本瑞心 伊藤美代子 伊東富士子 伊 伊 伊藤たつゑ 伊伊 藤 藤 藤 藤 垣 蘭香 蘭徑 美泉 桃苑 輝彩 華扇 蘭香 由美 弥生 井翠 青慶 紫風 岩田 岩瀬 岩瀬 岩瀬 岩﨑 岩崎 今村 今村 今西 今西 今井 伊吹 岩田 岩城みつ代 伊与田京子 今井 今井 今井 今井 今井 今井 井上 井 八恵子 清風 翠風 禎邨 古雅 紅鳳 保子 道子 香溪 夏虹 榎本 梅本 梅村 釆女 内山 内出 江 江崎 川 内田 内田 大河戸 大岡 宇佐美待月 江﨑婦沙子 大河内淳風 大久保春鼎 大鐘智芙未 宇佐美吉恵 秋泉 紫泉 雅舟 皐月 勢潭 岡戸 岡田 岡田 岡田 岡島 岡崎 岡崎 大矢 大原 大畑 大橋 大場 大野 大野 大野 大野 大野 大矢 大森みゆき 大野 大野 大野 大西 太田 大島健太郎 翠華 翠 園 瑞苑 大月 律苑 麦川 南風 蘭香 聲泉 敏充 彩 尾関 長田 尾崎 奥谷 奥野 奥田 奥田 奥田 鏡 小倉 荻野 小川 小川 小小小小川川川川 梶川美穂子 鏡 小野田美晴 落合八代栄 尾崎美恵子 奥田すみ子 小川 春日井静月 多恵子 真由美 壽子 明美 貞子 翠嵐 翠 玉 裕華 正嗣 涼舟 虹雨 順子 鶴扇 扇華 加藤 加藤 加藤 加藤 桂川 金丸 加藤 香月 片桐千 片岡 金森 金倉あ 加藤こづみ Ш 尚 柏泉 ゆみ 芳司 碩望 昭蘭 春渓 湖舟 恵月 杏華 珠翠 恵里 一賀子 生

と長谷川洋一 円を寄託。 支局長に十万 い、「年末助け い運動に



平成二十九年十二月十四日休 中日新聞四日

(北勢支部)

慶風 神戸 神田 神 田 川本 北川 岸田 木澤 川村有紀奈 Ш 河村美喜枝 雄鳳

報

国枝 工藤 清田 久野 久 野 國廣 工藤 工藤 工藤 久世たか子 久保田夋子

天山 生麗 寿仙 尚篁 悦子 和象 輝扇

鴻巣 甲谷 小嶋 小澤 河和 神山 河野 甲谷富美子 小 小出 出 小 出 泉 小泉 小石 小池 桑山 黒柳 黒岩 幸波 華扇 和香 順 子安 小 小 山 山 小 小 松 小 小 林 林 小林 小林 小林 小林 小林 小西 小見山輝山 小早川恵祥 峯雲 杏庭 翠篁 明彦 笹本 峪口 櫻井 榊原 榊原 坂川 佐藤み 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 佐藤 桜井 桜井 坂部 坂辺 酒井 佐藤 佐竹 佐治 笹本 佐々木博山 桜井 坂井 三野美恵子  $\mathbb{H}$ 都和 紅霞 翠翹 悠泉 清篁 春香 悠園 杉浦 杉浦 杉浦 杉浦 神藤 神藤 白井 庄野 柴田 柴田 白塚山山城 柴田惠美子 柴田真由美 紫穂 孝心 李泉 玲香 峯遠 由美 眞美 省子 道子 関根 曽根 曽我 鈴村 鈴木 祖父江瑞鶴 宗林 瀬古 須田 鈴木 鈴木 鈴木 鈴木 鈴木 鈴木 鈴 祖父江京華 木 愛子 美舟 翠径 吟香 翠虹 彬生 明蓬 誠人 美峰 光代 玉翠 春香 静波 姫泉 桃玲

髙橋千代子 武山 谷川 田中 田中 田中 田代 田島 武山 田中 田中 田澤 芳琴 由美 彩鵬 恵綏 華城 桜花 筒井 田村 土屋 塚本 千葉 玉田 美峰 布石 玉琇 弘子 美智 香風

徳倉 寺岡 戸田 栂野 遠山 遠山 遠山 藤堂 寺澤 寺田 鶴見 土井 勅使河原恵翠  $\mathbb{H}$ 禾風 春美 柳恵 茂子 祐峰

日新聞社会事業団の勢支部は二十一日、中 万円を寄託した。 年末助け合い運動」 中部日本書道会中南 会員から集めた十 中部日本書道会

市鳥居町の中日新聞鴻風企画委員が、津 一重総局を訪れ、

部長甲と谷企画委員を 寄託金を手渡す高根支 -中日新聞三重総局で



中日新聞 2017.12.22金

(中南勢支部)

年末助け合い寄託 中南勢支部10万円

た。保典総局長に手渡し

と十万円を寄 ますように 役立てて頂き 社会福祉に

長谷川

波多野朱芳



長谷川瑞鳳

長谷川春汀

長谷川治光

長谷川千春

## (岐阜支部)

-日新聞岐阜 | 一月十二月十二

日 (火)

長谷川 長谷川 橋本

雅庸 華星 佳静

芝菜 友理 天鱗 中中中中中中中中野野野野野野出 長畑 永田 中田 中中島嶋 原 伸江 滋

成鳴成 川田 新津 夏目 夏日 美 伸 芳 翠月

野田 野田 千津 君 子 者 子 野々村宜子 信川 迫 野 野 野 間 村 村 村 野々 根津 庭田 丹羽 丹羽 丹羽 二和田通代 Ш 垣煌玉

早早早早川川川川 濵 屋 馬場 原原原原林田田田 林 林 浜野 濱田 浜島 馬場 馬場 林 林 林 林 林林林林林 林

扶美子 緑園 慈恵

深廣廣平平平平平平平平平平井 耕瀬光松松野野野野田岩 肥 久 久 彦田 田 田 坂 深谷 平井三千代 日比野 日高 藤 藤 福 福 江 井 山 森 富貴原  $\Box$ 山野 悠水 和香 煌藍 敦子 瞳

前田奈津子 前川 本 本 堀 多 田 田 穂 堀 積 田 細田 星野 堀 堀 堀 洞 星野 翠月 英翠 爽月 仙燁

松松永松水 松原 真野 松本 松本 松原 松松松田田田 松下 松岡 松岡 松岡 松浦 松浦 華清 秋花 紫豊 昌風 尭雨 夏巴 巖芳 泰 清

宮 美 馬 箕浦 三野島凌雲 年樹 芳川 菜月

森山 守永 村村村山知田 諸富 柳八八生木木 森下千代子 村 村田 村 瀬 よし子 美 英子 翠恵 里帆 渓花 藍麗 富華

横井多惠子 別 解光 和 鷲田 野 湯山山山山山山川脇本本本本本 和佐田 脇 若田 杉 米津 米田 芳村 吉原 本宮乃理 種子 愛璃 祐翠 玉波 美香 (由美 代子

(十二月二十六日火)本部到着分までを掲載)

### 道 教 室 推 薦 看 板 申 請 制 度 **の**

### 書きぞめ展 中 第68回

平成30年3月17日(土)~3月18日(日)

ナディアパーク2階アトリウム 名古屋市中区栄三丁目18-1 슺 場

ナディアパーク 3階 デザインホール 授賞式 平成30年3月18日(日) 午後2時

### 中部日本書道会書道教室 推薦証等交付申請書

平成 年 月  $\mathbb{H}$ 

1

公益社団法人 中部日本書道会理事長 殿

住所 申請者 氏名(姓名)

(電話番号

下記の通り書道教室等の推薦を受けたいの で、手数料を添えて申請します。

教 室 名	
教室住所	<u>=</u>
ふりがな	
指導者名 (申請者名)	中日書道展 資 格
備考	

(注) 指導者の書歴は裏面のとおりです

年度末も間近となってまいりました。

受付年月日 平成 Н 交付年月日 月 H 平成

交付番号

※ご質問等は本部事務局迄連絡下さい

書道会推 L 薦教 第●●●号

室

公益社団法人 中部日本

教育研修会を受講された方に限ります。 されている方及び本会が主催する書道 ただし、準会員の方は、中日展に出品

資格者は本会の正会員です。

ら、誰にでも無条件というわけにはまい あります。(左記参照) 望される会員に有料で交付するもので 推薦証と推薦看板をひと組として、希 員の先生方を側面よりバックアップす 施いたしております。 目的として書道教室等の推薦制度を実 を、広く一般の人々に紹介することを るもので、教室または指導者に対して この制度は、書道教室を経営する会 交付にあたっては、この制度の内容か

下さい。) ので振替用紙 絡いたします にてお振込み (承認後ご連

> 推 薦

担当 教育部

右の者は書道並びに

o 評 12 議 18 員 日

書写教育の優れた 公益在日天中部日本書道会 れるのでここに推薦 指導者として認めら 平成 年月日

〇書道教室推薦証等交付申請書 (申請書は本部へご請求下さい)

のために、また書道の優れた指導者

本会では、

書の勉強を希望する人々

○推薦看板(写真) 推薦証(別記)

○申込資格 ○アクリル製、巾15m×長さ6 指導者名を記入いたします。 cm

本会正会員及び

選考会で認められた準会員 二五、〇〇〇円

○推薦手数料

通

本

内

部

新入会員紹介(+・+一・+ニョか)

平澤

雲香

申し上げます ○ 正 会 心より哀悼の意を表し、ご報告

計

します。

○ 10 評 議 員 堂 堂 ○ 正 10 会 月 員 日 ○ 9月14日 正11 会 員 会員 界外玉桜氏 下村如蓬氏 足立彩華氏 谷川景仙氏 足立はな様 (厚生部) 享年95 享 年 90

年度を見据え、関根玉振理事長を中事務局に於きましても年度末、新

心に事業の計画及び推進が、進めら

れております。

その成果の一つとして、

海外研修

と思います。

新たな希望と抱負を祈念されたこと

会員の皆様には、新春を迎えられ

### 本部会員は、郵便振替 00890-6-14420。 支部会員は、各支部会計担当者にご連絡下さい。

(正会員で中日書道展不出品の方及び準会員の方で未納の方)

費未納の方にお願い

住所変更、改姓、改号、社中変更等 変更事項は本部までご一報下さい。

平成29年度会費未納の方は、至急お納め下さい。

052 (583) 1900

ホームページアドレス http://www.cn-sho.or.jp

> メールアドレス info@cn-sho.or.jp

竹内紫燕氏 浅井径桜氏 会田慶子氏 享 年 84

> 回中日書道展の要項も決定しており 掲載いたしました。また、第六十八 好書道展等の特集を五ページに渡り 旅行が実施され、愛知県・江蘇省友

○ 12 評 17 日 で 母堂

りますので、宜しくお願い致します。 よう新たな気持ちで取り組んでまい 様々な情報を、的確にお届け出来る 編集部一同も、会員の皆様への 皆様の一年のご多幸ご健康を、

ますのでご確認ください。

## あとが

会報第一八七(新年)号をお届け 新年おめでとうございます。 中 致日